

令和4年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：小樽地区
- 2 事例報告学校名：小樽市立桂岡小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 山際 昌枝
- 4 キーワード：体育・食育の両輪で取り組む健康教育

1 はじめに

本校は、春香の山々に囲まれ、石狩湾を見下ろす恵まれた自然環境にある。札幌市と小樽市の中間に位置し、両市のベッドタウンとして発展してきた住宅地にある。標高130.5mに位置し、「地獄坂」と呼んでいる坂道などを毎日歩いて登下校している児童が多い。開校から47年目を迎えたが、温かな地域の人々に囲まれた環境は開校当初から変わらない。

教育目標「やさしく、かしこく、たくましく」の達成のため、「基礎基本を身に付け、すすんで物事に取り組む子の育成」を重点目標に掲げ、多様な専門性を生かし学校・家庭・地域が連携・協働するチーム桂岡として、「全ては子ども一人一人のために」の想いをもって、教育活動を推進している。通常の学級は6学級、特別支援学級は2学級、全校児童は90名で小樽市内でも小規模な学校である。



2 体育・食育の両輪で取り組む健康教育

小樽市の教育推進計画では、健康を保持増進し、体力・運動能力の向上を図るとともに、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるなど、健康教育の充実に取り組むための施策が示され、各学校において児童生徒の健やかな体の育成を図ることが求められている。

本校は、小樽市教育委員会から体育専科教員による体育の授業改善と栄養教諭を中心とした食に関する指導を両輪として取り組む実践校の指定を受け、今年度の重点的取組に位置付けている。校内研究において、「健康の保持増進を目指し、自ら生き生きと学ぶ子どもの育成～体育・食育の指導方法の工夫を通して～」を研究主題に掲げ、これからの社会を生きる子どもたちに必要な健康の保持増進に関する資質・能力の育成に向けた学校づくりを目指している。

(1) 体力向上の取組

本校の児童は、令和3年度の新体力テストの結果から、持久力や体の柔軟性に課題が見られ、体育専科教員を中心に、家庭・地域と連携を図りながら全校体制で体力向上を目指した取組が実践されている。

ア T・Tによる体育授業の改善と工夫

体育授業は、児童一人一人が見通しをもって学習に臨み、主体的に課題を解決することで、体を動かすことの楽しさを実感する。また、「時間」と「場」の設定を工夫すれば、子どもたちは仲間と共に「伸びる」楽しさを味わうことができると仮説を立て、「見通しや振り返りを位置付けた学習課程」「児童一人一人が意欲や目標をもって取り組める学習過程の提示」「『時間』と『場』の工夫」を視点とした個別最適な学びと協働的な学びの授業を日々実践研究している。児童アンケートでは、99%が「体育が好き」と回答し、93%が「自分で目標をもって体育の授業や運動に取り組んでいる」と回答している。



イ 体育的行事等を通じた取組

児童の課題を踏まえ、運動会、スキー学習のほか様々な体育的行事の中で、生涯を通じて運動に親しむ態度の育成につながることを意識した取組を行っている。遠足は、低学年が6km、中学年8km、高学年は10kmを目標に目的地を決め、自分の足で歩く経験を通し、体力向上を図る機会とすることや仲間と歩くことの意義、価値について実感させる機会とすることなどをねらいに年2回実施している。また、マラソン記録会は、校舎周りとグラウンドを使って、低学年500m、中・高学年1kmのコースを作り、朝活動や中・昼休み等の時間を使って練習し、昨年の自分の記録を超えることを目標に、長距離走を通して最後までやり抜くことの大切さを味わわせるとともに、日常的に運動することの意欲を喚起させている。



(2) 栄養教諭と連携し、全校体制で取り組む食育

本校の食育は、養護教諭、体育専科教員、低学年及び高学年の担任代表から構成する食育推進委員会と研究推進委員会が連携しながら全校体制で取組を進めている。

ア 全校で統一した給食指導の実践

給食の時間における指導は、新型コロナウイルス感染症対策を取り入れた「給食のやくそく」に基づき行われているものの、各担任によって給食指導の方法はまちまちであった。そこで、栄養教諭を講師に招いて校内研修を実施し、ワークショップ等を通して給食指導について意見交流を行い、「日常の給食指導要領」を作成し、全校で統一した給食指導を実施している。また、子どもたちが日常の家庭生活でも生かすことができるよう、ホームページや学校・学級だよりへの掲載などを行い、家庭との連携も図っている。

また、学校給食の献立を教材として食に関する指導を充実させるため、給食センターから発信される資料「給食メモ」等を有効活用するとともに、子どもたちの感想や資料の気付きを給食センターに返信するなど、双方向で情報を共有しながら取組を進めている。

イ ICT等を効果的に活用した食に関する指導の授業実践

食に関する指導の授業は、各教科等の目標をよりよく達成できるように、食育の視点を明確にし、教科等の特質に応じて実施することが求められている。栄養教諭とのT・Tによる授業は、小樽市が取り組んでいる課題解決型の授業スタイルに基づき、効果的な支援の在り方を研究実践している。ICTの活用は、端末を使った事前アンケートや事後の振り返り、ジャムボードによる食品の分類や献立作成、自分の考えを友達と意見交流する場面など、主体的、対話的で深い学びを実現する授業づくりと子どもたちが学んだことを学校や家庭で継続的に実践できることを目指した取組を行っている。



3 おわりに

本校は、「体を動かす良さや楽しさを実感し、主体的に体力を高めようとする子」「『食』を通して、自分の生活をよりよくしていく子」を目指して取組を行っている。今後、さらに健康教育の充実を図るためには、家庭・地域との連携を強化し、生活習慣を確立させることが喫緊の課題である。